

# 第4学年 国語科 学習構想案

日 時 令和3年12月1日(水) 第2校時  
 場 所 4年1組教室  
 指導者 教諭 大溝 謙二郎

## 1 単元構想

単元名	日本語の教え方について考えよう「教え方を生み出そう」(東京書籍「新しい国語四下」)			
単元の目標	(1)筆者の考えとそれを支える理由や事例との関係について理解することができる。 (2)筆者の主張に対する自分の考えと本文の叙述や経験を根拠とした理由を共有することで、一人一人の感じ方に違いがあることに気づき、自分の考えを広げることができる。 (3)「筆者の主張に対する賛成・反対会議を開こう。」という学習課題を明確にして、筆者の主張に対する自分の考えを共有することで、自分の考えを広げようとする。			
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	① 筆者の考えとそれを支える理由や事例との関係について理解している。(ア)	①「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(カ)	①「筆者の主張に対する賛成・反対会議を開こう。」という学習課題を明確にして、筆者の主張に対する自分の考えを共有することで、自分の考えを広げようとしている。	
単元終了時の児童の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)				
他者の考えやその理由や根拠を比べることで、自分の考えを広げることができる児童。				
単元を通した学習課題(単元の中心的な学習課題)		本単元で働かせる見方・考え方		
筆者の主張に対する賛成・反対会議を開こう。		考えやその理由や根拠を共有することで、自分の考えを広げたり深めたりすること。		
習得させる用語	①筆者の主張 ②事例 ③理由	習得させる方法	①自分の考えを広げる	
指導計画と評価計画(11時間取扱い 本時6/11)				
過程	時間	学習活動(「問い」を設定しても可)	用語・方法の習得	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体の評価規準」
一	2	○既習の説明文における筆者の主張に対する自分の考えを整理する活動とおして、「筆者の主張に対する自分の考えをもつ」という課題意識をもつ。 ○「はじめ」と「終わり」の部分を読んで筆者の主張を捉える。 ○難解語句の意味を調べる。	用語①	★【態①】(ノート・発言) ○筆者の主張に対する自分の考えを述べようとしている。
二	7	○「中」を読んで、筆者の主張とそれを支える理由や事例を整理し、文章構成図にまとめる。 ○筆者の主張に対する考えを交流し、自分の考えを確かめる。(本時) ○新しい教え方を考える。 ○新しい教え方を考えた経験をもとに、筆者の主張に対する自分の考えを改めて交流する。	用語② 方法① 用語③	★【知①】(ノート, 発言) ○筆者の考えとそれを支える理由や事例の関係について文章構成図にまとめている。 ★【思①】(ノート) ○筆者の主張に対する自分の考えを根拠や理由を明確にしてまとめている。 ★【思①】(ノート) ○筆者の主張に対する考えを交流して、それぞれの考えの違いや良さに気付いている。 ★【思①】(ノート) ○話し合いをおして自分の考えが広がったことを振り返りシートに記入している。
三	2	○振り返りシートをもとに単元の学びを整理することをおして、考えを交流することで自分の考えが広がり深まったりしたこと気付く。 ○他の説明文を使って筆者の主張に対する自分の考えを交流する。	活用	★【態①】(ノート・発言) ○友達と考えを交流し筆者の主張に対する自分の考えを広げようとしている。

2 単元における系統及び児童の実態

学習指導要領における該当箇所(内容, 指導事項等)				
[知識及び技能] (2) ア 考えとそれを支える理由や事例の関係について理解すること。 [思考力, 判断力, 表現力等] 「C 読むこと」(1)カ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し, 一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。				
教材・題材の価値				
本教材は, 普段意識することなく用いられている日本語の「数え方(助数詞)」の特徴, 機能について述べられたものである。言葉の働きについての関心を高めたり, 日頃当たり前だと思っているものごとを改めて見つめ直すことの面白さや大切さに気付かせたりすることができる教材である。また, 「数え方」は児童にとって身近な話題であり, 自分自身の経験と結び付けて考えることができる。身近な話題を取り上げた文章だからこそ多様な感じ方や考え方が生まれ, 一人一人の感じ方などに違いがあることに気付く学習に適した教材といえる。				
本単元における系統				
	1年「子どもをまもろうぶつたち」 くらべてかんがえる			
	2年「あなのやくわり」 知っていることとむすびつけて読む			
	3年「人をつつむ形」 ものの見方や考え方をとらえる			
4年「ヤドカリとイソギンチャク」 文章のまとまりをとらえる	4年「くらしの中の和と洋」 調べたことを関係付ける			
	<b>4年「数え方を生み出そう」</b> <b>筆者の考えから自分の考えを広げる</b>			
	5年「『弱いロボット』だからできること」 多角的のとらえる			
	6年「プロフェッショナルたち」 文章を読み, 考えを広げたり深めたりする			
児童の実態(単元の目標につながる学びの実態)				
■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況(%)				
調査内容	概ね(6割~8割程度)	十分(8割以上)		
○叙述を基に文章の内容を捉えている。				
○叙述を基に段落の内容を捉えている。				
○情報と情報との関係について理解し, 中心となる語や文を見付けて要約している。				
■本単元の学習に関する意識の状況(%)				
調査内容	はい	まあまあ	あまり	いいえ
◎国語の学習が好き。				
◎国語の学習が得意。				
◎説明文を読むことは好き。				
◎単元のゴールに向かって, 自分で考え, 自分から取り組んでいる。				
◎友達の考えを聞いて, なるほどと思ったり自分の考えが変わったりすることがある。				
◎筆者の考えに対する自分の考えを持っている。				
○話し合いをするとき, 意見を活発に発言している。				
○友達の意見を聞いて新しいことに気付いたり, 自分の考えが深められたりして, 勉強が面白いと思う。				
※それぞれの調査内容において, ○は4月実施の市学調の結果, ◎は11月実施の意識調査の結果である。 ( )内の数字は6月の実施結果である。				

## ■考察

(資質・能力に関して)

(学びに関して)

### 3 指導に当たっての留意点（「校内研修の取組の視点」等から指導上の留意点等について明記）

#### <視点① 指導事項と用語・方法の明確化>

- 本単元の指導事項は、「文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。」である。筆者の主張に対する自分の考えを、根拠や理由を明確にして共有させていくことで、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付かせていきたい。
- 本単元で習得させるべき用語は「筆者の主張」と「理由」、「事例」である。  
「筆者の主張」については、今までに学習した説明文から筆者の主張を抽出して、それらと結び付け、本単元で繰り返し使いながら用語の習得を目指す。  
「理由」とは、なぜそのような考えをもつのかを説明するものである。「事例」とは、考えをより具体的に説明するために挙げられた事柄や内容のことである。本教材で筆者が述べている理由や事例を読み取ること、自分の考えを形成したり共有したりする場面で理由や根拠を明確にしていくこと、両方の場面で繰り返しおさえていくことで用語の習得を目指す。
- 本単元で習得させるべき方法は「自分の考えを広げる」である。自分の考えの広がりを感じている児童は多いことが調査結果で分かっている。本単元でも、筆者の主張に対する考えを交流することで自分の広がりを実感させ、それぞれの感じ方などの違いに気付いたことを言語化して方法の習得を目指す。

#### <視点② 学びがつながる「課題設定」>

- 単元の導入では、今まで学習した説明文の筆者の主張に対する自分の考えを交流する活動をとおして、そのおもしろさを感じさせ、「筆者の主張に対する賛成・反対会議を開こう」という単元を通じた学習課題への意欲を高められるようにする。
- 単元を通じた学習課題設定後、それに対して取り組むよう促す。そうすることで、今はできないことに気付かせ、これから何を学習していく必要があるのという単元の見通しをもたせる。

#### <視点③ 学びを深める「課題解決」>

- 筆者の主張に対する自分の考えをもつために必要な構造と内容の把握、精査・解釈を行くことで、自分の考えを形成し、共有する時間を単元の中で十分確保できるようにする。
- 必要に応じて教師が問い返しを行い、考えの根拠や理由を明確にした話合いとなるようにする。

#### <視点④ 学びを確かなものにする「振り返り」>

- 筆者の主張に対する自分の考えを一枚の振り返りシートに蓄積していくことで、自分の考えの広がりにつなぐことができるようにする。

#### <視点⑤ 目的のある ICT 活用>

- 文章構成を整理した図を電子黒板に提示しておくことで、筆者の考えとそれを支える理由や事例の関係を視覚的に理解しやすくし、自分の考えの形成の一助とする。

#### <人権が尊重される授業づくりの視点>

- 発言に対して自分のなりの反応をする約束を徹底させていくことで児童の聞く態度を育成し、発言する児童が自己有用感を持てるようにする。

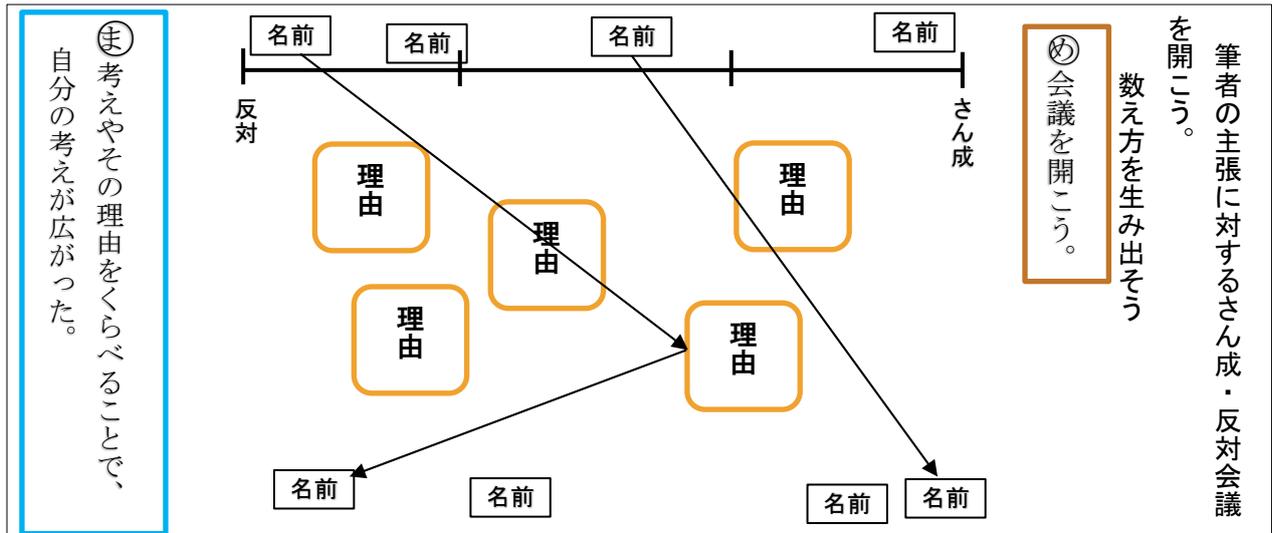
4 本時の学習（6／10）

(1) 目標 筆者の主張に対する考えを交流する活動をとおして、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付き、自分の考えを広げることができる。

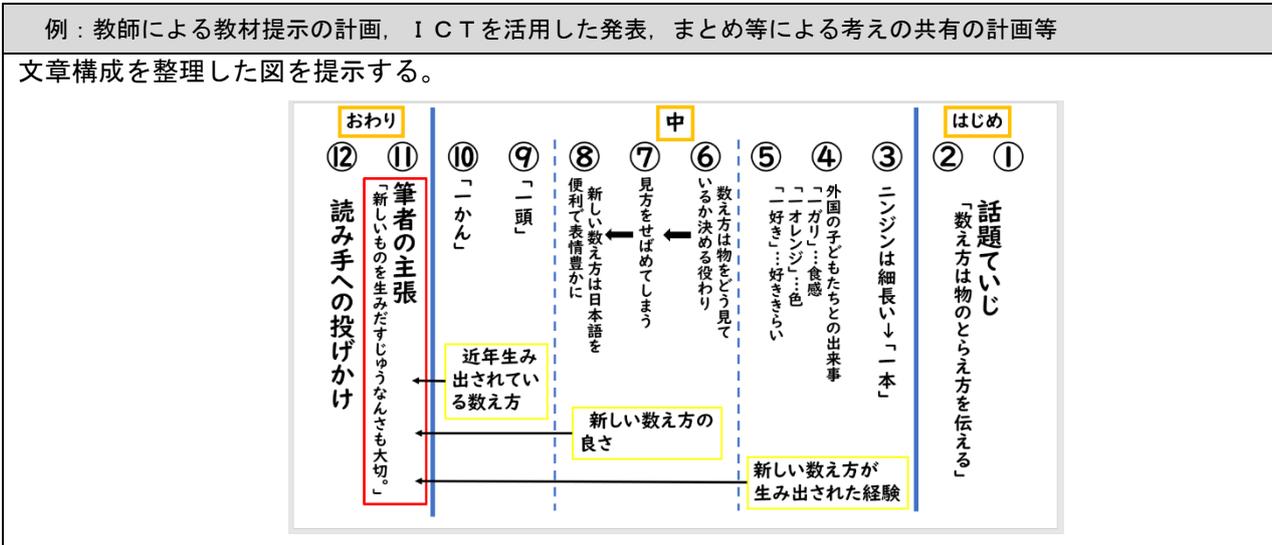
(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図, 内容, 方法等)
みとおす	5	1 新出漢字を学習する。	○個に応じて主体的に進められるようにする。
	5	2 前時までの学びから本時のめあてを設定する。 ◇もう話合いができそうだな。  【めあて】会議を開こう。	○前時までの流れから本時のめあてを設定することで、単元のゴールへと学びがつながっていくようにする。
もとめる・ふかめる	25	3 筆者の主張に対する考えを交流する。 ◇わたしは賛成です。だって、筆者が言っているように新しい数え方は日本語を豊かにしてくれるからです。 ◇反対だけど、賛成の考えもあります。新しい数え方が生まれると楽しそうだけど、たくさんあると混乱してしまいそうだからです。 ◇そのことで言いたいことがあります。筆者が言っているように最近新しい数え方が生み出されていますよね。だから、ぼくは大丈夫だと思います。 ◇うーん…。 ◇やっぱり賛成にしようかな。だって、  話し合ってみて、自分の考えはどうになりましたか。  ◇わたしは、賛成に変わりました。それは、…。 ◇同じ反対でも、理由はちがったな。 ◇ぼくは、反対のままです。 ..... 【期待される学びの姿】 考えとその理由をくらべることで、自分の考えが広がっていることに気付いている。	○必要に応じて教師が問い返しを行うことで、考えの根拠や理由を明確にした話合いとなるようにする。 ○文章構成を整理した図を電子黒板に提示しておくことで、筆者の考えとそれを支える理由や事例の関係を視覚的に理解しやすくし、自分の考えを形成する一助とする。 ○他者の考えとの交流によって自分の考えの広がりや視覚的に理解できるよう構造的な板書を行う。  ○話し合ってみて自分の考えがどうなったか問うことで、考えの広がりを認識させる。 ○考えが変化していないと感じる児童に関しては、共感した他者の考えを挙げさせることで、自分の考えがより確かなものになったことに気付かせる。
まとめる	10	4 本時の学びをまとめる。  【まとめ】 考えやその理由をくらべることで、自分の考えは広がる。  5 単元のゴールに対する、本時の振り返りを行い、次時への見通しをもつ。 ◇次は自分たちで新しい数え方を考えてみよう。	○児童の発言を拾いながら、本時の学びをまとめる。 ○まとめを書き終わった児童は、本時のまとめを具体的な言葉で表現させる。 ○筆者の主張に対する自分の考えを一枚の振り返りシートに蓄積していくことで、自分の考えの広がりに気付くことができるようにする。  【具体的評価規準】思① ○話合いをとおして自分の考えが広がったことを振り返りシートに記入している。(方法：ノート・発言)  【到達していない児童への手立て】 ○机間巡視を行い、板書を手掛かりにさせ、考えやその理由を比べることで自分の考えが広がったことに気付かせる。

【板書計画】



【ICT活用計画】



※その他 課題解決を図る情報収集計画，検証結果やパフォーマンスの記録計画など（シーンに応じて活用計画を立てる）

【見方・考え方を働かせて解く適用問題等の計画】

単元終了後は，見方・考え方を働かせて次の学習に取り組む

単元末に，本単元で働かせた見方・考え方を生かして，別の説明文を読み考えを共有していく。